

医学部医学科のマイルストーン

コンピテンスの領域	コンピテンスの領域	コンピテンシー	Level 1	Level 2	Level 3 (卒業レベル)	Level 4 (advance)
1. プロフェッショナリズム	1. プロフェッショナリズム 大阪公立大学医学部学生は、卒業時に医療専門職としての自己の役割を理解し、高いモラルを持って患者中心の医療を実践できる。	1) 患者および家族のニーズを認識し、患者中心の医療を提示、実践することができる。	患者の基本的権利、自己決定権について説明できる。時代や社会の変革に伴い患者・家族の意識やニーズが常に変化していることが理解できる。	学内外において他者に対して、利他的、共感的、誠実な行動をとることができる。	診療の場において、患者および家族のニーズを理解し、患者中心の医療を提示することができる。患者の精神的、身体的苦痛、プライバシーに配慮した行動をとることができる。	患者および家族のニーズを認識し、患者中心の医療を提示、実践することができる。
		2) 医療専門職として社会における自己の役割を理解し、継続的に学修することができる。	医療専門職に課せられる法的・倫理的責務について概説することができる。個人の命と健康を守る医師の役割や果たすべき職責について継続的に学修することができる。	最新・最善の医療の提供を社会から必要とされていることを理解できる。一般的な医事知識の中から専門的な知識を入手でき、問題解決型の学習を行うことができる。	医療専門職として、自らの課題を明確にし、解決のプランを審察し、解決のための行動をとることができる。	学内に限らず、学外でも知識・技術の研鑽の場を求めて行動できる。
		3) 高いモラルを持ち、届性のある行動をとることができる。	社会人としての一般常識・倫理観を身に付け行動することができる。グループ学習等において、常に同僚や関係者に対して配慮した行動をとることができる。	規則的な生活習慣、時間管理を行うことができる。他者に対して感謝と敬意を払うことができる。	社会人・医療専門職としての一般常識、法的・倫理的責務に基づき行動できる。研究倫理についても学び、それに基づいた行動ができる。	
2. 医学知識と問題対応能力	2. 医学知識と問題対応能力 大阪公立大学医学部学生は、卒業時に必要な知識を身に付け、幅広い症候、病態、疾患に対応できる。	1) 診療や研究の基礎となる基礎医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる。	各器官の正常な構造・機能とその成立・維持に関わる情報伝達機構を説明できる。病気の発症と進展に関わる病因・病態生理を説明できる。	医学研究の進歩に歩みを持ち、正確かつ最新の情報を新たに取り入れ、理解し活用することができる。	一般的な診療の場面で、基礎医学の知識をもとに症状・疾患を理解し説明することができる。	最新の基礎医学領域に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図ることができる。
		2) 診療や研究の基礎となる臨床医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる。	社会医学領域の基礎的知識を有し、関連する法則や理論を説明することができる。	ライフステージや生活環境に応じた健康管理と環境・生活習慣改善について説明することができる。保健統計、医療・福祉、介護の制度、人の死に対する基礎的知識を有し、概説することができる。	地域医療、地域保健の活動に参画し、その必要性を理解し、社会医学の知識を地域や公衆衛生の現場において活用することができる。	複雑な病状の患者においても、疾患の病態・病態をベースに臨床医学知識と身体診察から得られた結果を統合して、予防、診断、治療に活用できる。
		3) 診療や研究の基礎となる社会医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる。	生命現象の科学、個体の反応、基本的な病因と病態、人の行動と心理に関する基礎的知識を有し、概説することができる。	生命科学、行動科学などの関連知識をもとに症状・疾患を理解、説明することができる。	一般的な診療の場面で、生命科学、行動科学などの関連知識の基礎知識を活用することができる。	生命科学、行動科学などの関連領域の知識を日々アップデートし、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。
		4) 医療の基礎である生命科学、行動科学などの関連領域の知識と原則を理解し、医療の現場で実践することができる。	1) 論理的で体系的な医療面接、身体診察を行うことができる。 2) 頻度の高い疾患に関して、適切な鑑別診断と治療戦略を立てることができる。 3) 基本的な臨床手技や緊急救命処置を安全に実践することができる。	診療に必要な病態を構成する要素を提示できる。身体所見から得られた情報を病態をまとめて説明できる。 主な症候の鑑別診断リストを挙げることができる。 臨床手技を行う適応と禁忌を挙げ、基本的な手技についての実施方法を述べることができる。	模擬患者に対して医療面接、身体診察を行うことができる。包括的な身体診察を行うことができる。 提示された臨床事例に対して臨床推論、判断、治療計画の立案を行うことができる。 診療参加型臨床実習に参加する学生に必要な手技に関する学理・評価項目に記載のある診療技術を模倣型に行うことができる。	一般的な診療の場面で、基礎医学の知識をもとに症状・疾患を理解し説明することができる。 一般的な診療の場面で、臨床医学知識を疾患の予防、診断、治療に活用できる。各種疾患に対する診療ガイドラインを活用することができる。チームの一人として診療やカンファレンスに参加することができる。
3. 診療技能と患者ケア	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に患者の苦痛や不安に配慮し、診療、臨床手技を実践することができる。	1) 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる。	コミュニケーションの方法と技術の基本。コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響について概説できる。コミュニケーションを通じて良好な人間関係を構築することができる。	模擬患者に対して、患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる。	患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる。一般的な診療の場面で、診療チームの一員として患者からインフォームドコンセントを得ることができる。	複雑な背景を持った患者に対しても、患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる。
		2) 患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる。	患者と良好な関係を築くためには、患者の個別的背景を理解することが重要であること、家族の持つ偏見や社会的背景が多様であり得ること、医師が患者中心の視点に立つて行われなければならないことについて理解することができる。	模擬患者に対して、患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握し、抱える問題点を抽出、整理することができる。	患者とのコミュニケーションを通じて、患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる。	患者とのコミュニケーションを通じて、患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる。問題点の抽出、改善策の提示を行うことができる。
		3) 適切な症例プレゼンテーションを行える。	適切なプレゼンテーションの要点項目、基本について説明できる。	授業やワークショップ、実習などさまざまな場面で定型的なプレゼンテーションと質疑応答を行うことができる。	臨床現場において、担当患者の申し送り、適切な症例プレゼンテーションらに質疑応答を行うことができる。	学外においても、適切な症例プレゼンテーションと質疑応答を行うことができる。
		4) 患者の状態について、報告・連絡・相談ができる。	患者の状態について、報告・連絡・相談する必要性を理解できる。日常生活の中で、関係者に適切な報告・連絡・相談を行うことができる。	模擬患者の状態について、報告・連絡・相談すべき内容を説明できる。患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。	一般的な診療の場面で、診療チームの一員として患者の状態について、報告・連絡・相談することができる。正しい診療録を記載することができる。	複雑な背景を持った患者に対しても、患者の状態について、報告・連絡・相談をすることができる。正しい診療録を記載することができる。
5. チーム医療の実践	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人の役割を理解し、連携できる。	1) 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。 2) チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。	チーム医療の意義、医療チームの構成や各構成員(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職)の役割分担と連携・責任体制について説明することができる。	医療現場において、医療専門職間の連携の重要性、各医療職の役割、医師の役割について理解し説明することができる。 グループ学習において、「リーダーおよびメンバー」としての自分の役割を果たし、チームの機能を高めることに貢献できる。	病棟、保険所、介護施設等の現場で、診療や業務チームに加わり、他のメンバーと情報共有し、連携を図ることができる。多職種チームで協働することができる。	医療の課題を設定し目標を明確化したうえで、多職種のチームで協働することができる。必要な職種を求めてチームを結成することができる。 病棟、保険所、介護施設等の現場で、診療や業務チームに加わり、他のメンバーと情報を共有し、適切な指示を行うことができる。
		1) 医療の質と患者安全の重要性を理解する。 2) 医療事故等の予防と事後の対応を知る。 3) 医療従事者の安全と健康管理(予防接種や計画的事故への対応を含む。)を理解し、自らの安全と健康管理に努める。	医療の質と患者安全確保のための基礎知識を説明できる。一般的な医療事故の発生メカニズムと防止策を説明できる。 労働衛生の三原則「作業環境管理」「作業管理」「健康管理」について説明することができる。	医療現場における具体的な危険性を判別できる。標準予防策の必要性、計画的事故等の対処方法を説明できる。	診療や業務の現場で、患者の安全確保に基づいた行動および医療安全上の問題を報告・連絡・相談できる。 医療機関における医療事故等の予防と事後の対応について説明することができる。医療安全管理者のチームに参加し意見を述べることができる。 標準予防策を実践できる。一般的な診療の場面で、医療従事者の安全と健康管理を理解し、自らの安全と健康管理に努めることができる。	医療事故制度を理解し、指南のもと実践できる。医療事故を防止するための対応策を提案することができる。 医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。医療の質の向上に努めることができる。
6. 医療の質と安全の管理	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に患者にとって良質かつ安全な医療を理解し、医療従事者の安全と健康に配慮できる。	1) 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。 2) 大阪の地域医療に携わり、指導/監督のもと診療に参加できる。 3) 大阪の医療の現状、課題を理解する。	地域における保健・医療・福祉・介護の分野間および多職種間の連携の必要性を説明できる。 診療所見学等を通じて医療従事者と交流し、大阪の地域医療に携わり、地域医療の現状、プライマリケアの必要性を知ることができる。 大阪の医療の現状、特殊性、課題を理解し、それらの葛藤を引き起こす地域的ポイントと社会医療の実態を理解することができる。	地域包括ケアシステムの概念、地域における救急医療、在宅医療、へき地医療、災害医療について概説することができる。	保健所、保健福祉センター等の現場に参加し、具体的な地域保健・福祉策について理解、議論することができる。 本市附属病院外において、指導者の元で患者の問診やカルテ記載などの外業務の補綴を行うことができる。 地域包括ケアシステムの概念、地域における救急医療、在宅医療、へき地医療、災害医療について概説することができる。 大阪市消防局救急隊員と連携し、大阪市における救急医療の実態を理解することができる。大阪府下の介護施設実習を通じて、地域医療の仕組み、実態について理解することができる。	大阪府の医療計画、地域医療構想について概説することができる。
		1) 医学及び医療上の疑問点を挙げることができ、適切にヒアリングを収集できる。 2) 科学的研究方法を理解する。 3) 研究の意義を理解し、参加、協力できる。	提示された課題について図書館およびデータベースを利用して関連する文献の収集を適切に行うことができる。 論文を読み解くための基本となる基礎知識を学習し、提示された文献を読み、内容を簡潔にまとめることができる。研究の計画から発表までの概要を説明することができる。 研究意義の重要性を理解し説明できる。実習において必要な作業を教員の指導のもと実習日に記載された手順に沿って行うことができる。	事例学習を通じて、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の理解の深化につながる。こうして得られた情報について正確に解釈、評価することができる。 提示された課題について、教員の指導のもと研究(実験)の目的を理解し、それを行うことができる。また、得られた結果について正しく解釈、評価することができる。 提示された課題について、教員の指導のもと研究(実験)を行うことができる。また、研究について内容を簡潔にまとめたレポートを作成することができる。	自ら課題を設定し、その課題について関連する国内外の文献を収集し、必要に応じて文献の内容が信頼できるものであるか吟味することができる。こうして得られた情報について結果を正しく解釈し、それが実際の医療にどう反映できるかを考察することができる。適切にヒアリングを収集でき診療計画を立案できる。	臨床上の疑問点に関して、臨床研究を立案し、必要な情報収集を適切に行うことができる。また、結果をまとめて発信することができる。
		1) 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる。 2) 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる。	生涯学習の重要性を理解できる。各分野における国内外の最先端の研究について学び、生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集することができる。 同級生とのグループ学習において、自分の考えをメンバーに向けて提示することができる。また、自分の考えに対する他のメンバーからの指摘や意見を受け入れ、尊重することができる。	学習中に直面した疑問に対して、海外からの情報を収集し解決のために活用することができる。患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語を用いて、簡単な問診を行うことができる。 臨床実習現場で同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことの重要性に基づき行動できる。	国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を収集し医療に活用することができる。患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語を用いて、簡単な問診を行うことができる。 臨床実習現場で同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことの重要性に基づき行動できる。	医療の質の向上のために絶えず学習し、他の医療者とともに研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
7. 社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に医療人として求められる社会的役割を理解し、地域医療、大阪の医療に貢献する力を獲得する。	1) 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。 2) 大阪の地域医療に携わり、指導/監督のもと診療に参加できる。 3) 大阪の医療の現状、課題を理解する。	地域における保健・医療・福祉・介護の分野間および多職種間の連携の必要性を説明できる。 診療所見学等を通じて医療従事者と交流し、大阪の地域医療に携わり、地域医療の現状、プライマリケアの必要性を知ることができる。 大阪の医療の現状、特殊性、課題を理解し、それらの葛藤を引き起こす地域的ポイントと社会医療の実態を理解することができる。	保健所、保健福祉センター等の現場に参加し、具体的な地域保健・福祉策について理解、議論することができる。 本市附属病院外において、指導者の元で患者の問診やカルテ記載などの外業務の補綴を行うことができる。 地域包括ケアシステムの概念、地域における救急医療、在宅医療、へき地医療、災害医療について概説することができる。 大阪市消防局救急隊員と連携し、大阪市における救急医療の実態を理解することができる。大阪府下の介護施設実習を通じて、地域医療の仕組み、実態について理解することができる。	大阪府の医療計画、地域医療構想について概説することができる。	
		1) 医学及び医療上の疑問点を挙げることができ、適切にヒアリングを収集できる。 2) 科学的研究方法を理解する。 3) 研究の意義を理解し、参加、協力できる。	提示された課題について図書館およびデータベースを利用して関連する文献の収集を適切に行うことができる。 論文を読み解くための基本となる基礎知識を学習し、提示された文献を読み、内容を簡潔にまとめることができる。研究の計画から発表までの概要を説明することができる。 研究意義の重要性を理解し説明できる。実習において必要な作業を教員の指導のもと実習日に記載された手順に沿って行うことができる。	事例学習を通じて、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の理解の深化につながる。こうして得られた情報について正確に解釈、評価することができる。 提示された課題について、教員の指導のもと研究(実験)の目的を理解し、それを行うことができる。また、得られた結果について正しく解釈、評価することができる。 提示された課題について、教員の指導のもと研究(実験)を行うことができる。また、研究について内容を簡潔にまとめたレポートを作成することができる。	自ら課題を設定し、その課題について関連する国内外の文献を収集し、必要に応じて文献の内容が信頼できるものであるか吟味することができる。こうして得られた情報について結果を正しく解釈し、それが実際の医療にどう反映できるかを考察することができる。適切にヒアリングを収集でき診療計画を立案できる。	臨床上の疑問点に関して、臨床研究を立案し、必要な情報収集を適切に行うことができる。また、結果をまとめて発信することができる。
8. 科学的探究	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に医学及び医療における科学的アプローチを理解できる。	1) 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる。 2) 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる。	生涯学習の重要性を理解できる。各分野における国内外の最先端の研究について学び、生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集することができる。 同級生とのグループ学習において、自分の考えをメンバーに向けて提示することができる。また、自分の考えに対する他のメンバーからの指摘や意見を受け入れ、尊重することができる。	学習中に直面した疑問に対して、海外からの情報を収集し解決のために活用することができる。患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語を用いて、簡単な問診を行うことができる。 臨床実習現場で同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことの重要性に基づき行動できる。	国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を収集し医療に活用することができる。患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語を用いて、簡単な問診を行うことができる。 臨床実習現場で同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことの重要性に基づき行動できる。	医療の質の向上のために絶えず学習し、他の医療者とともに研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
		1) 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる。 2) 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる。	生涯学習の重要性を理解できる。各分野における国内外の最先端の研究について学び、生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集することができる。 同級生とのグループ学習において、自分の考えをメンバーに向けて提示することができる。また、自分の考えに対する他のメンバーからの指摘や意見を受け入れ、尊重することができる。	学習中に直面した疑問に対して、海外からの情報を収集し解決のために活用することができる。患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語を用いて、簡単な問診を行うことができる。 臨床実習現場で同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことの重要性に基づき行動できる。	国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を収集し医療に活用することができる。患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語を用いて、簡単な問診を行うことができる。 臨床実習現場で同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことの重要性に基づき行動できる。	医療の質の向上のために絶えず学習し、他の医療者とともに研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	大阪公立大学医学部学生は、卒業時に生涯にわたって自律的に学び、共に研鑽し、相互に教育することができる。	1) 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる。 2) 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる。	生涯学習の重要性を理解できる。各分野における国内外の最先端の研究について学び、生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集することができる。 同級生とのグループ学習において、自分の考えをメンバーに向けて提示することができる。また、自分の考えに対する他のメンバーからの指摘や意見を受け入れ、尊重することができる。	学習中に直面した疑問に対して、海外からの情報を収集し解決のために活用することができる。患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語を用いて、簡単な問診を行うことができる。 臨床実習現場で同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことの重要性に基づき行動できる。	国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を収集し医療に活用することができる。患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語を用いて、簡単な問診を行うことができる。 臨床実習現場で同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことの重要性に基づき行動できる。	医療の質の向上のために絶えず学習し、他の医療者とともに研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。